

4月14日 国際農業工学レポート 建設コンサルについて

建設コンサルとは政府からの発注を受けて測量・地質などの土地調査・設計などを行う建設事業の設計者的役割を担い、成果物を提供する企業である。実際の施工者であるゼネコンやメーカーと連携して施工管理・環境対策を行いながら事業を進めていく。また行政だけではなく NPO や海外事業に関わる場合もある。しかしながら、基本としては公共事業を通じた社会貢献を行っている。

農業農村整備事業とは、自然との共生を計りながら営まれている農業を支援するため、耕作地の整備や農村の環境整備などを行っている事業の総称である。具体的には、農業水利事業、農地防災事業、農地整備事業の3つに分けられる。

農業水利事業においては、農業用水の安定供給とは椅子の改良を図るため、ダム、用排水路、用排水機場の整備などを行う。この事業は国と地方が役割分担して実施される。

農地防災事業とは、農用地・農業用施設に対する自然災害による被害を未然に防止し、農業用排水の汚濁または農用地の土壌汚染を防止することで、農業生産を維持し農業経営を安定化するとともに、国土保全、地域住民の安全の確保に貢献する各種事業である。この事業の開始には、集中豪雨の増加、台風の上陸、地震などの自然的背景や、都市化による水質汚濁や土壌汚染などの社会的背景がある。

農地整備事業とは、耕地区画・用排水路・農道の整備、土層改良、を実施することで労働生産性の向上を図り、農村の環境条件を整備することである。農林水産省や都道府県の公共事業として行われている。

今回の大村さんの講義で印象に残った言葉は、専門コンサルをするメリットに関しておっしゃっていた「一分野における横のつながり」だ。実際の事業を行う際にはいくつもの専門を持った人が集まって行うことになる。その上で、「この分野ならこの人に任せられる」と思ってもらえる繋がりを作ることができれば、いろいろな事業において声がかかることになるだろう。1つの専門をもつということは一つの武器を持つということである。そのため、何かを始める上でも他の人よりも目立つことができる場面がある。そういった自らの専門をもった上で他の分野の人々と協力し、何かを行っていくことは大変やりがいがあることのように思う上に、現代の複雑な問題を解決する上では学際的な人間だけでなく、そういった一分野を極めた人材が重要になってくると思われる。

現在私はこれを専門にしたいという具体的なものはまだないが、この2年間で見つけようと思う。